

思い、やる、人。

浜田まさよし通信

www.hamada-m.com



NO.2

発行日:2004年8月1日 発行/公明党参議院比例区第8総支部

初当選

「本音の政治」をモットーに取り組んで参ります。

7月11日に行われた第20回参議院選挙において、比例代表区で三万三千三百十票を得票して初当選することができました。

公明党にとつても全く新たな選挙戦を戦わせて頂き、「第3政党・国民政党」としての公明党への熱きご支援を頂きました。

一部マスコミにおいては、「民主躍進・与党不振」、「2大政党化進む」、等の論評が見られます。これらは正しくありません。数字を客観的に見れば、共産党の大敗退(マイナス1)を民主党が吸収した(プラス1)にすぎず、これに対して与党・公明党は改選議席を10から1へと躍進したのです。まさに、日経新聞・芹川政治部長が指摘しているように、「自民・民主の2大政党と公明党による2+1(ツー・プラス・ワン)政党制ができるあがつた。日本の政治は次への踊り場にさしかかっている」のです。

これから約3年が、「次の50年を決める」と言って過言ではありません。浜田まさよし、「本音の政治」をモットーに取り組んで参ります。皆様、宜しくお願い申し上げます。



「2+1(ツープラスワン) 政治体制を向かえて」

選挙戦を振り返つて

北は北海道、南は九州・沖縄まで24都道府県、特に経済産業省時代にお世話をした、化粧品関係、スーパー、化学、電子材料産業、住宅産業等をまわりさせていただいた感じたことは、「の4年半の与党公明党の実績がしっかりと評価されていく」とでした。

私が頂いた3万票のみならず、今回の選挙では全国的に「公明党」という党名の投票が格段に増えた(約63万票増)のはその表れだと感謝しています。

21世紀・日本の政治の課題

一方、民主党や一部マスコミが「2大政党化」としきりに喧伝していますが、日本と米・英では歴史が違います。米国は「南部・北部、農業・工業、地方分権・中央集権」といった明確な対立軸、あつて2大政党に收敛して行ったのに對し、日本は小沢氏と菅氏による「選挙戦術のための2大政党化」です。特に、近年の民主党は、一部マスコミの政治的偏向に乗じ、変に政権に「色気」が出てきて、なんでも反対の昔の野党に成り下がっています。これでは政治不信、メディア不信が拡大するだけです。日本の2大政党対立はどうしても、建前化(反対のための反対、賛成のための賛成)しがちで、これでは国民にとって利益はありません。

公明党の役割と浜田まさよしの抱負

今回の選挙で議席増を果たした、第3極の公明党としては、現実感、リアリティをもつた政策を提案し、「不毛な2大政党の論争」を、大衆の目線に誘導していくことが期待されています(「2+1政治体制」)。

私、浜田まさよしは、今国会において参議院行政監視委員会(理事)、及び経済産業委員会に所属させていただきました。今後、政治不信を払拭しうる「本音の政治」を抱負とし、特に、専門の経済雇用対策をはじめ、社会保障の見直し、地方分権(三位一体改革)の推進、教育基本法、憲法改正問題といった日本の骨格を変える課題に対し、大衆の目線で政策実現を果たして行きます。



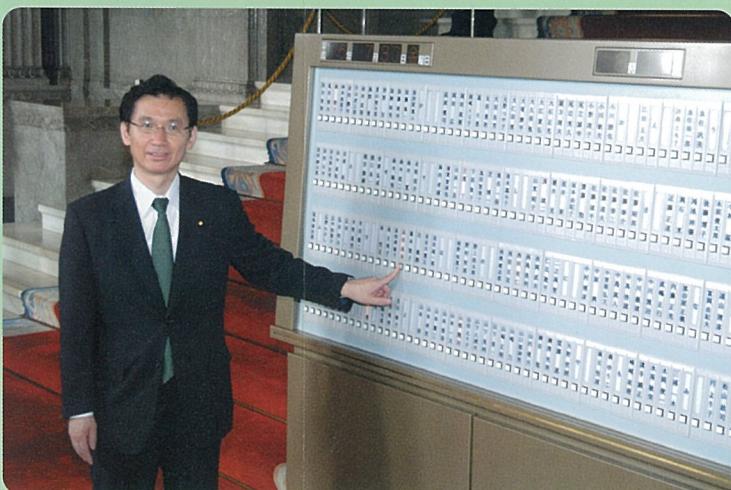
5月18日 太田房江知事と近畿経済活性化について意見交換



6月18日 浜田まさよし事務所開所式で神崎代表挨拶



6月27日 山名衆議院議員の応援を受け京丹後市個人演説会



7月30日 第160国会召集日に浜田まさよし初登院